

会 議 録

1 会議名

令和2年度第5回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和2年10月15日（木）午後6時30分から午後7時22分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 白木朝雄（会長）、高橋和彦（副会長）、浦壁隆一郎、大瀧修一、
大瀧 壽、大舘崇雄、久保田直美、高橋礼子、中野洋子、松矢 茂
（欠席者2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：松矢委員、浦壁委員に依頼
- 議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1 「北諏訪区に関するデータ」
- ・資料No.2 「自主的審議の進め方について」
- ・資料No.3 「各区の自主的審議事項の取組状況」

北諏訪区は「消防団及び自主防災組織のあり方と連携について」というテーマで、平成28年度に審議を開始し、平成29年3月に北諏訪地区公民館で北諏訪分団の消防団員と意見交換を行い、どのような課題があるかを話し合っていた。

また、同時に平成29年度から「地域支え合い事業について」というテーマで審議をスタートした。このテーマを優先的に審議していく中で、北諏訪まちづくり振興会が設立されたので、令和2年1月に、このテーマについては審議終了となった。

一方、市の上越市消防団適正配置検討委員会では審議を重ね、消防団が抱える課題や地域の実情を把握・分析し、将来を見据えて消防団の役割を果たせる体制を確保するための対応策をまとめ、平成31年3月に市へ提出した。報告書は、上越市のホームページでも見られる。検討委員会でも、組織体制の見直しや消防団員の確保が課題として挙げられており、担当課へ確認したところ、今後、市と消防団みずからが必要に応じて組織の改編等を検討していくということである。

北諏訪まちづくり振興会も発会され、今後は町内会と連携しながら防災面でも活動母体としてまちづくり活動を進めていくと思う。事務局としては「消防団及び自主防災組織のあり方と連携について」というテーマは、一旦審議を終了として、次回以降、新しい委員もお迎えしたことから、地域の課題としてどのようなものがあるかを改めてフリーに情報交換をしていただきながら、新たなテーマを練ることも一つの進め方と考えている。

本日は、自主的審議の進め方についてご協議いただきたい。

【白木会長】

今ほどの事務局案のとおり「消防団及び自主防災組織のあり方と連携について」は、審議終了とし、次回以降、新しいテーマについて意見交換を行うことでよろしいか。

(異議なし)

では次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回の会議日程は、現在の諮問等の急ぎの案件がないので、また協議案件があれば、

会長と日程を調整し開催日をお知らせする。

【白木会長】

他にないか。

【大館委員】

まだ、時間があるようなので、自主的審議事項のテーマについて、意見があれば出していただいたらどうか。

【白木会長】

自主的審議事項のテーマについて意見を求める。

【浦壁委員】

北諏訪区では平成28年から「消防団及び自主防災組織のあり方と連携について」を検討していたとあるが、上越市消防団適正配置検討委員会が作成した報告書の中で、上越市の現状として消防資機材（ポンプ車、積載車、可搬ポンプ）の配備状況がまとめられている。北諏訪区は毎年のように、大雨が降って越流したとき消防団がポンプで排水をしてくれる。私も現場を見に行ったのだが現在の可搬式ポンプは消防仕様のもので、水害時にはそれを代用している。私の意見としては、水害時に対応できる多目的の可搬式ポンプを配備してもらえないかと思っている。

【白木会長】

今、消防団が抱えている問題はソフト面で、一番の問題は団員の拡充ができないことである。今現在、消防団が有事の時にすぐ駆けつけて対処できるような体制がとれない部分がある。消防団の統合についても、ハード面の懸案事項についても、ここで話しても難しい部分がある。

【大館委員】

私のところに10月20日の北諏訪まちづくり振興会の会議案内がきている。北諏訪区地域協議会と北諏訪まちづくり振興会で連携しながら、まちづくりを進めていくのが良いのではないかということで前年度からいろいろ話しているが、この北諏訪区地域協議会で自主的審議をしていくことを、北諏訪まちづくり振興会でも意見を出しても良いのか。意見を出して町内会長からも意見をいただくという形をとっても良いのか。

【白木会長】

今、大館委員から意見があったが、皆さんどうか。連携が大切だが、きちんと審議をしたほうが良いか。

【小池係長】

今日、北諏訪まちづくり振興会の理事長が欠席だが、もし自主的審議事項がどんなものか説明が必要であれば、いつでも説明させていただき、地域の課題について振興会の皆さんで話し合っただくことはありがたいと思う。

【大館委員】

北諏訪まちづくり振興会に市職員が行くとそちらがメインみたいにもなるので、北諏訪区地域協議会で説明するのが筋だと思う。北諏訪まちづくり振興会で町内会長が町内の実情も知っていると思うので、意見を聞いても良いのではないかという意見である。

【白木会長】

お互いの情報共有は大切なことだが、独立して組織があるから、その中に介入はできない。そこをうまく接合していければいいので、北諏訪まちづくり振興会、町内会長連絡協議会の中で、いろんなことで揉みながら、何がベストなのか考えていけば良いと思う。

他に意見を求める。

【大瀧壽委員】

資料にある人口減少の問題について、ただグラフを作ってこれで終わりなのか。少子化対策や地域で人が減っていくことは大変なことなので、もう少し話を詰めて、人口を増やすにはどうしたら良いのか話し合ったらどうか。

しかも、旧上越市で北諏訪区は下位である。北諏訪区は住みにくい場所なのか。私は、横曽根町内だが、毎年1軒ずつぐらい増えている。死亡したり施設に入ったりもあるが、トータルすると例年並みである。対策として、土地を欲しがっている人はいるが、農業振興法という難しい法律があって断念している不動産屋や個人がいるという話を聞いた。行政でそういうものを撤廃できないのか。今、コロナの患者が多いので首都圏から地方に行きたいという話もある。新潟県に行きたいと思わせるようなものを北諏訪区からも発信していければ良いのかと思う。

【高橋和彦副会長】

今の話で、北諏訪区は平成12年から27年までで300人の減少だが世帯数で見ると12軒増えている。これは、1世帯あたりの家族構成人数が減少しているということになる。新聞で見ると一番多いのが自然減である。お亡くなりになる人が多いというものもあるが、ここの地域性で見ると、高校、大学を出て県外へ勤めたり、今、小・中学校

に行っている子どもたちが、地元に残ってくれることが一番良いが、やはりいろいろな経験をしたり、自分の夢や目標を達成するために県外へ出る人が多くなったのではないか。

私も30年ぐらい前だが、県外で学生をやっていた。地元の良さは、帰ってくると感じたし、今、大瀧壽委員が言われたように地元の良さの発信も大事なことだと感じる。

【白木会長】

今年から北諏訪まちづくり振興会を立ち上げたが、人口減少が北諏訪まちづくり振興会の立ち上げの一番の論点である。だから皆さんの意見は、今日は理事長が欠席だが、今後、問題点等々について皆さんときちんと審議をしていけば良いのかと思う。

地方の施策というよりも、国・県・市の施策なので、なかなか難しい部分があるし、人口減少というのはどうしようもない現実なので、そこを行政主導でやっていくというのが一番だと思う。

何か他にないか。

【久保田委員】

北諏訪区地域協議会がどういう役割を果たすのか、よく理解もせずに引き受けてしまったところはあるが、やはり北諏訪区で住んでいる以上、地域のことをいろいろ知りたい。いろいろな意見を持っている人の話を聴く機会を自分でも持ちたいと漠然と思っていた。資料を見て人口減少は、ある意味ショックなところがあったが、それに関する意見や具体的にどうするかというのは難しい。いろいろ考えている人の話を聴けるのはとても良い機会だったと思っている。今、自主的審議の話も出て、北諏訪区の問題は何かと言われると具体的には難しいが、子どもたちが過ごしやすいまちが良いのではないかと考えている。私にできることがあったら、協力したい。

【白木会長】

あと3年間あるので、地域協議会委員12人で知恵を出し合いながら、新しい地域づくりをしていければと思う。

他に何かないか。

【大瀧修一委員】

地域として一番心配しているのが人口減少である。今出ている数値は、前回の国勢調査の結果である。私は、今回出る数値がすごく気になっている。それは、平成27年の時と比べて大幅に違うのは、第1次ベビーブームの人たちが70歳を過ぎて、その数値

が出るのが今回の国勢調査である。昭和22年から昭和26年までの4年間に生まれた人達が大量に70歳になってくる。高齢化率も、もっと高くなるはずである。それからすると、この次の数値が出た段階で非常に驚くのではないかと思っている。

それから、先ほど言われた、家を建てたいという場合に、農村振興地域という話があったが、農村振興法は田んぼを守るという法律なので、家を建てるという規制ではない。ここは都市計画法の市街化調整区域で、当時は住宅を建ててはいけないと地域規制をされていたが、最近は規制緩和されてきており、地域の実情に合わせるということで、空いている土地があれば、市街化調整区域でも建てることのできるということで、今、その規制も緩和されてきているので期待している。子どもが結婚しても、子どもが生まれた時に親と同居ではなく、同じ敷地の中に別の建物を建てている。これも、なんとかしたら良いのではないかと思う。言ってもしょうがないが、できることなら親と一緒に住むような世帯を作ってもらいたい。

これは行政への相談だが、この数値の中に表われていないのが、身体障害者や要介護の関係で、重度の3、4、5の人たちが何人いるか公にされていない。重度の介護度については民生委員の人たちにはデータがくるが、身体障害者の人については、全然表に出てこない。以前は、手帳をもらうと行政から身体障害者のそれぞれの団体に連絡がいったって同じ障害で困っている仲間内で助け合うというのがあったが、そういう団体にも情報がっていない。そうすると勧誘もできないので、どういう人がどういう障害を持っていて、苦しんでいるのかがわからない状態なので、プライバシーの問題はわかるが、もう少し障害で困っている人たちの組織について育成するような捉え方はできないのかと思っている。

【白木会長】

家は今、農村地には建てられるし、前は市街化調整区域が結構あった。ところが、何年前かに市街化調整区域を外して区域外になった。家を建てる人は、前よりは容易に建てられるようになった。

【中野委員】

諏訪区に二貫寺の森という、すごく自然が多くて良い所があるみたいなので、そういう他の人にも知ってもらえるような場所が北諏訪区にもあれば良いのではないかと思う。

【白木会長】

北諏訪区でも子どもたちに自然環境を学べる場所があれば良いと思うが、管理が大変

という部分もある。北諏訪区地域協議会でも、環境問題や子ども達の成長のために何か審議してもよいと思う。

【松矢委員】

北諏訪区に来たときに、みんなが遊べるとか、みんなが集まれる場所があるのかと考えたときに思い当たらない。以前、諏訪区の住民組織の人が北諏訪区地域協議会で諏訪区の実組について説明してくれた時に、北諏訪区にも二貫寺の森のようなところを題材にして地域で集まる何かを作れるのではないかと思った。しかし北諏訪区を見た時に周りに田んぼばかりで、飯田川が流れているが、どこを見ても変わったところがない。公園らしきものもないし、強いて言えば横曽根の池を埋め立てたところに大きな広場がある。あそこを北諏訪区として、何かうまく使って公園でもいいし、何かできないか。

今は、小学校くらいしか集まれる場所がない。ただ田んぼに行って何かするのも無理な話だから、思いついたのはそこくらいである。飯田川は河川敷がなく、ただ水が流れているだけで、河川敷が広ければ何とかしようがあるだろうが、そのような場所もない。子どもが遊べて、家族でも楽しめるような場所があってほしいと思う。

【白木会長】

飯田川は1級河川である。県外に行くと大きな川の河川敷はすごく広く、人が集まれる場所になっているが、残念ながら上越市にはない。

- ・他に意見を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。